

京都市東山区の福祉と革新の源流を探る I

藤本文朗*、藤田 洋**、植松昭一**

要約

私たちは、京都市東山区の「福祉」と「革新」の源流を探る懇談会を発足し、まず年表作成を行い(明治以降)、そこでの流れを以下の6点から考察した。

- 1・ 廃仏毀釈
- 2・ 避病院、驅黴病院
- 3・ 谷口善太郎
- 4・ 東山診療所
- 5・ 若者(女性)の街
- 6・ 外国人問題

ここでは、6点の考察と、年表、明治初期につくられた避病院について報告する。

キーワード：東山の福祉と革新、年表、避病院

2009年10月2日受理(実践研究)

1. これまでの経過と東山の歴史

この研究の出発点は、戦後の国民歴史研究運動(山城一揆、祇園祭)に学び、地元の歴史(明治以降)を、「福祉と革新」の側面を掘り起こす作業を、地元の人々と集団(事務局5人組・歴史研究者はいない)で、2008年12月より取り組み始めている¹。

顧問として協力頂いている方々は、流石智子(華頂短期大学)黒川富美子(文理閣)津止正敏(立命館大学)中根超信(元京都市社協事務局長)向井啓治(種智院大学)(アイウエオ順)である。

東山は、1929(昭和4)年に下京区から分区し1931年山科区が編入され、その後1976年山科区が分区した。人口40,615人(2009年3月)、北はほぼ三条通、南は伏見稲荷の北側とする、東は東山の山脈、西は鴨川で切られている。面積は7.46km²京都で人口面積、人口とも京都市内で最少の区である。男(17,243人)女(23,584人)で昔から女性が多い。高齢者率は29.4%(2008年10月現在京都市内では最も高い)で、これと

関係していると思われる。地元産業として京焼・清水焼が挙げられるが、今は厳しい。メインは、知恩院、清水寺、東福寺、三十三間堂、八坂神社に代表される神社・寺院等の観光に負うところが多い。しかし清水寺附近以外の東山の街の商店街は最近シャッターが下りている地域が目立つ。

私(藤本)はこの地に生まれ、50年間この地に住み、こよなく東山を愛する人間である。6年間大阪の地において、昨年東山にもどり、地域の革新勢力に物足りなさを感じた。2期続けて東山区の市議員、府議員を私の信頼する政党は議席をとれなかった。

そこで74歳、フリーになったので、この地の福祉と革新の伝統を歴史的にとらえる必要を感じて「東山の福祉と革新の源流を探る研究会」を旗揚げしたわけである。私たちは、この地の歴史を探る楽しさが第一だが、現在・過去・未来と時間軸でこの地の福祉と革新の展望を開くことにある。

この会の事務局メンバーは基本的にフリー(定職無

* 東山の福祉と革新の源流を探る懇談会
連絡先：藤本文朗
〒605-0953 京都市東山区今熊野南日吉町13
Tel & Fax 075-541-5270
** 東山の福祉と革新の源流を探る懇談会

し)、6ヶ月間年表作り(明治以後を縦軸、横軸に一般情勢、福祉、革新運動)を藤田洋、藤本文朗事務局員が中心になり、38の文献(地元華頂短期大学が全面的に協力)と聞き取りでA4用紙10ページのものができ、日々加筆されつつある。

この年表から現時点で見えてきた(仮設)ものを以下に挙げてみよう。

1) この地区には京都を代表する社寺が点在する。北から知恩院、八坂神社、法観寺、建仁寺、六波羅蜜寺、清水寺、妙法院、泉涌寺、東福寺などである。これらは、江戸時代、幕府、天皇といった大権力の庇護の下、多くの寺社領も持っていて、安定した経営状態であったが、1868年(明治1~8年)から始まった明治政府による神仏分離令、上知令によって、廃仏毀釈は全国を大嵐の様に吹きまくった。東山の地では大荒れである。地方の様に檀家を持たない寺は、その存在が危ぶまれ、何か地域に役立つことをと考え、駆疫(療病院、駆疫院)、福祉(保育所)、教育(華頂高)に手を出す芽を作ったと言える²。

2) 明治に入って、開国とかかわってイギリスの公衆衛生の考えが政府の政策として取り入れられていき、伝染病の隔離が進められ、東山においても神仏分離令によって府、市に取り上げられた土地(建仁寺では1万5千坪)などに療病院(青蓮院-1872(明治4)年)、避病院(隔離施設、東福寺-1879(明治12)年)下京区避病院-1889(明治22)年、今熊野、駆疫病院-1876(明治9)年建仁寺-が出来、コレラ流行-1897(明治12)年などに対応した。

ここでは、駆疫が公安(警察)と結びついて進められる。そんな中で日露戦争(1902(明治35)年)の中でロシア人捕虜が東福寺全山に1500名住む(国際条約に基づく対応)という福祉の側面を持つ対応もみられた(1905(明治38)年)³。

3) この地での革新の旗が大正期にふられた地域として今熊野を挙げることができよう。今熊野は1887年(明治20)までは、府下愛宕郡今熊野町であった。この年より京都市の下京区に編入されたが、古くは葬送地か荒地であった。

1931年(大正2)東山の今熊野で陶業が始まり、清水焼の工場などと新興住宅が建てられていく。1922年(大正11)京都陶磁器従業員組合がこの地を土台に600名で結成され、翌年京都での日本共産党が結成された⁴。

この地で指導的な役割を果たしたのは、日本共産党の谷口善太郎(1899~1974(明治32~昭和49))である。日本共産党に入党(1922年(大正11))した谷口善太郎は1925年(大正14)、今熊野宝蔵町に新居をかまえ、労働学校事務所を置き、山本宣治を校長とする京都労働学校を創設し、この地域の労働者に「知は力なり」を知らしめた。京都陶磁器従業員組合は1924年~30年、長期(1ヶ月)ストライキを行っている。1928年(昭和3)第1回普通選挙で、京都2区より山本宣治が当選している⁵。

4) この伝統は、戦争で中断されたとはいえ、戦後の新憲法で受け継がれ、京都陶磁器労働組合を再建(320名-1945年(昭和20))された。又占領軍化の元で、自衛商工業者、住民の戦いがおこった。そして組合と地域の革新勢力が「じん肺」「高齢者」「駆疫」を中心とした東山診療所(民医連-1952年(昭和27))がつくられ、活動を始めるのである⁶。

5) 東山は戦前から、若者(女性)の町である。今でも人口の1/3、1万3000人近い大学生(京都女子大学、華頂短期大学)-女子学生-が通学、下宿している。歴史的には私立華頂看護学校(1906年(明治39))、京都華頂女学校(1911年(明治44))ができ、そして京都高等女学校(1914年(大正3)現京都女子大学)、京都市立絵画専門学校(1928年(大正15)現京都市立芸術大学)、ができていっている。戦争中馬町で米軍の爆弾投下(1945)、京都女子専門学校生徒が被爆を受けている。これらの学校では民主青年同盟の活動家が育ち、巣立っていく。また、華頂短大に社会福祉学科が発足(1958年(昭和33))、介護福祉士養成が始まる(全国的女子短大で最初の設置)。そして京都女子大学でも生活福祉学科の発足(2004年(平成16))。四年制で介護福祉士が養成されていく。

東山の「福祉と革新」の歴史的伝統の流れを5つの側面から系統的にみることができるといえよう。この中で全国に発信できる、いや、せねばならない歴史的眞実は洛東病院といえよう。

6) 東山は外国人の影響も無視できない①東福寺のロシア人捕虜の収容(1504人)1905年②東山トンネル開通のため朝鮮人労働者の動員(1921年)③米国(占領軍)の日赤病院接収などあげられる(1945年)

2 「東山の福祉と革新の源流を探る」年表

(作成 藤田洋 藤本文朗)2009年9月17日

西暦	和暦		東山地域の福祉関連等	東山地域に係る革新運動等
1868	M01	明治維新、鳥羽・伏見の戦い 第1次町組改正 神仏分離令(廃仏毀釈)	六波羅に流民集所がもうけられる	
1869	M02	第2次町組改正 天災窮民救助の規定	番組小学校開校(有濟、栗田、新道、清水、六原、貞教、修道、一橋、弥栄)	
1871	M04	戸籍法 廃藩置県 解放令 社寺領上知令	療病院の設立許可(仏教界、花街や町衆から寄付を集め運動)	
1872	M05	学制発布	栗田口に解剖所の設置 青蓮院に療病院開設(その後、種痘館・解剖所・癲狂院・驅黴院を管轄し府立医科大学の前身)(開設の式典で日本最初の赤十字旗を建てる) 府が女紅場を設置。祇園などに婦女職工引立会社設置。	
1873	M06	地租改正 切支丹禁制高札撤去 徴兵令発布		
1874	M07	「医制」の制定 恤救規則		
1875	M08	社寺領上知令	南禅寺方丈に仮癲狂院を設置(日本初の公立精神病院)	
1876	M09		建仁寺塔頭福聚院を改修して療病院附属仮驅黴院(梅毒の検査治療施設)を開業	
1877	M10	西南戦争		
1878	M11	「京都日日新聞」創刊		
1879	M12	コレラの流行	東福寺南谷塔頭に避病院(隔離施設)他には大徳寺に。療病院に医学校を付置。	
1882	M15		祇園新地の花見小路の土地4400坪に仮驅黴院を移転し京都驅黴院開院	
1885	M18	「日出新聞」創刊		
1886	M19	コレラが大流行し府下で1095名が死亡。 円山公園の設置。		
1887	M20	9カ村を京都市に編入(愛宕郡栗田口村を上京区に愛宕郡今熊野村と清閑寺村を下京区に)上京・下京区に衛生組合が置かれた		
1889	M22	京都が「市制施行」4.1	下京区避病院(伝染病院日吉病院の前身)今熊野に設置	

1890	M23	琵琶湖疏水の第1期工事完成。 疎水工事の継続事業である鴨川運河工事始まる。 帝室技芸員制度の設立(工芸技術の保護と奨励)	知恩院山内に平安育児院が開設(孤児院)	
1891	M24	日本初の水力発電を蹴上発電所稼働開始		
1892	M25		共立貧民授産所(六原裏門通り)。宮川町に鴨東婦人慈善会。祇園新地に祇園慈善会。	
1893	M26		下京区避病院を日吉病院と名称変更 知恩院山内に京都施薬院協会施薬院が設けられた	
1894	M27	日清戦争		
1895	M28	日本初の路面電車開業	日吉病院の管轄が京都市から府に移管され5700坪の敷地に移転新築	
1896	M29	京都陶磁器同業組合設立 京都市陶磁器試験所設立(M36に京都市陶磁器試験場と改称)		
1897	M30	伝染病予防法施行 京都国立博物館開館	再び日吉病院の管轄が府から市に移管され日吉病院は常時開院となる(今までの避病院は伝染病が流行すると開設し終息すると閉院する臨時患者収容施設)(入院費は無料、患者の食事も市費から支弁)(貧困層を対象としていた) 知恩院山内法徳院に私立病院「施薬院病院」が開設され救貧医療に取り組む(京都市立病院の系譜)	
1898	M31	京都市陶磁器試験所内に伝習所を設立		
1900	M33		京都駆徴院を京都府立八坂病院と改称	
1902	M35	京都高等工芸学校設立(現在の京都工芸繊維大学)		
1904	M37	日露戦争始まる		
1905	M38		東福寺全山が徴發(軍が人民の所有物を強制的に取り立てること)され、日露戦争でのロシア人捕虜収容所となる(1504人)	
1906	M39	織物消費税反対運動	知恩院内に私立華頂看護婦学校の設立	
1908	M41	京都市二大事業起工式(道路拡張及び市電、第二疎水、上水道整備) 中央慈善協会(後の社協)		
1910	M43	コレラ流行 日韓併合	芸娼救済所を設置	
1911	M44	大逆事件の幸徳秋水ら11名死刑となる		

1912	M45	蹴上浄水場竣工、市電運転開始		
1913	T02	今熊野日吉地区で陶業始まる。	京都府立八坂病院が清水梅林町の南無地藏跡地に移転する(その後平安病院をへて洛東病院)	
1914	T03	泉涌寺地区(東林寺)で開窯		
1915	T04		京都市立京都病院建設に伴い日吉病院は京都病院分院と改称され常設病院から伝染病流行時のみの臨時開設に変更	
1916	T05	大正デモクラシー運動 河上肇の「貧乏物語」	京都府立八坂病院付属看護婦養成所認可	
1918	T07	京都市の隣接16町村を編入。東七条で米騒動が起き、全京都市内に広がった。	京都市は公設市場(北野、川端、七条)を開設し、12月に勸業課内に「救済係」(社会政策問題を専門に研究、企画)を新設	
1919	T08	京都に官立陶磁器試験所が設立。	京都市三条保育所の開殺。下京区に職業紹介所を新設、公設市場(正面、新町頭、壬生)に新設	
1920	T09	大不況で清水焼16日間作業停止	京都市「救済係」を「社会課」に昇格させる。京都市衛生試験所を旧日吉病院跡に開設(大正15年まで)	
1921	T10	東海道線の東山トンネルが開通(朝鮮人労働者を動員)	清水寺の大西良慶大和上(京都仏教護国団団長)によって「京都養老院」開設。京都府下で最も古い施設。(1941年に「同和園」と改称)	
1922	T11	健康保険法制定(1927年施行・工場、鉱山、交通業の事業所で働く従業員本人のみ)	東福寺山内旧三聖寺客殿で三聖医院が開設(1926年に医院隣地で三聖病院開設)神経症診療。 月輪小学校、一橋小から分離し三橋小学校として開校	京都陶磁器従業員組合結成(600名)谷口善太郎氏青年部長に。また谷善は京都合同労働組合を創立し組合長に。日本共産党創立。
1923	T12	関東大震災恩給法制定 日本共産党第1次弾圧		京都の日本共産党組織が結成。
1924	T13			京都労働学校創設(山本宣治校長)その後、総同盟京都連合会とともに事務所を東山区今熊野宝蔵町に移転(谷善専従として住む)。 京都陶磁器従業員組合1カ月の長期ストライキ(三島神社スト) 京都初のメーデー行進
1925	T14	治安維持法公布		谷口善太郎ら日本労働組合評議会京都地方協議会を結成
1927	S02	日本の金融恐慌発端		

1928	S03	共産党一斉検挙(3.15事件) 改正治安維持法(死刑・無期刑を追加) 特高警察の発足 二ノ橋川が都市計画により廃川となる。	昭和保育園開設	第1回普通選挙で京都1区水谷長三郎、京都2区、山本宣治が当選。 日本共産党中央機関紙「赤旗」創刊 谷善3.15事件で逮捕され以後五年間特高に見張りされ自宅監禁。 日吉製陶組合の結成(後の京都日吉製陶協同組合S33・53名)
1929	S04	救護法(施行は1932年) 下京区より東山区が分区される。 世界恐慌始まる 日本共産党弾圧(4.16事件)		日本共産党弾圧(4.16事件)
1930	S05	世界大恐慌が日本に波及し昭和大恐慌		京都陶磁器従業員組合1カ月の長期ストライキ
1931	S06	満州事変、日本が中国へ侵略戦争。 宇治郡山科町を東山区に編入。	今熊野小学校、現月輪小から分離し一橋第三小学校として開校	
1932	S07		地域住民の熱望と募金により京都第一赤十字病院が設立	
1933	S08	京大滝川事件 九条跨線橋完成 児童虐待防止法 小林多喜二検挙虐殺される		共産党への弾圧
1935	S10	水害で鴨川氾濫、三條・五条大橋流失。 京都市電が東山通・九条通を開通。		
1937	S12	盧溝橋事件 南京虐殺	真覚寺統後保育園の開設(後の真覚寺保育園)	
1938	S13	国家総動員法公布 国民健康保険法		
1939	S14	国民徴用令公布 市、区、学区に警防団と府の銃後奉公会が発足		
1940	S15	物価統制令		京都陶磁器従業員組合強制解散させられ産業報国会に。製陶組合も解散
1941	S16	労働者年金保険法 真珠湾攻撃、太平洋戦争に 町内会・隣組が設置される。		
1942	S17	京都日出新聞と京都日日新聞が合併し京都新聞に		陶磁器産業も戦時体制下で日吉地区に12の会社が設立された。 京都市内の6消費組合が合同し京都消費組合が生まれる。
1943	S18	各家庭の銅鉄回収運動始まる。 学生の勤労奉仕学徒出陣		
1944	S19	京都市内22か所で建物強制疎開始まる。		

1945	S20	<p>京都府庁の疎開先として今熊野の市営地蔵山墓地・蹴上の都ホテルに隧道式防空地下施設を建設。 米軍馬町に爆弾投下(京都市初)(死者40余名負傷者40余名被害家屋300戸以上) 学童集団疎開始まる。 広島長崎に原爆投下される。 8.15日本敗戦。 占領軍の京都占領で京都第一赤病院や都ホテル、竹屋旅館などが接収される。 10.4GHQ司令「政治的市民的および宗教的自由に対する制限の撤廃に関する覚書」 人権確保に関する五大改革を指令(女性解放寝労働組合奨励、教育の自由化、思想統制の廃止、経済制度の民主化) 農地解放司令 旧・生活保護法</p>		<p>京都陶磁器労働組合結成(再建総会)(組合員320名) 「赤旗」の再刊。 日本社会党京都支部の結成(会長の水谷氏は東山在住)。 解放運動犠牲者同志出獄歓迎集会(共産党が京都市民の前に公然と現す)が開かれた。 日吉地区に戦後間もなく8基の窯が築窯され20基に増えた。 泉涌寺地区には14基の窯</p>
1946	S21	<p>物価統制令公布、旧円停止 天皇神格否定の勅諭 日本国憲法公布 第17回メーデー(京都)に5万人 米占領軍が医大ストを弾圧 財産税法公布 増加所得税公布</p>	<p>京都府立八坂病院を平安病院と改称(その後京都府立洛東病院)</p>	<p>幣原内閣打倒再選挙要求市民大会(円山音楽堂・京都民主戦線主催)に1万人が参加、米占領軍がデモを弾圧。 勤労所得税撤廃京滋労働者大会(円山公園) 日本共産党京都府党が再建(東山在住の細川氏、小柳津氏らが活躍)され第1回地方党会議</p>
1947	S22	<p>米占領軍による2. 1スト中止命令。京都地方労働組合協議会が結成(74000人) 所得税に申告納税制度導入 労働基準法公布 児童福祉法</p>		<p>山科地区労働組合協議会結成(組合数6組合) 日本共産党京都府委員会が京都市内各行政区オルグを配置し「細胞群委員会」を組織 陶労先頭に業界挙げての物品税撤廃運動 全市料理飲食業者大会(華頂会館) 「不当課税反対同盟」が結成</p>
1948	S23	<p>GHQ徴税遂行覚書発表。占領軍が「徴税」に直接介入。 取引高税実施 民生委員法制定 京都ジフテリア予防接種禍事件、68名死亡(内東山20名)</p>	<p>東山消防団結成。京都視覚障害者協会東山支部発足</p>	<p>「不当課税反対同盟」会議で名称を「京都納税民主化同盟」に名称変更。 重税で差し押さえ乱発(全市で2000人)「トラック徴税」のなかで、「生活守る会」「納税民主化同盟」「商工擁護同盟」などの運動を基に、「東山納税民主化同盟」が発足(のちの東山民主商工会) 六原小学校で東山悪税反対区民大会開催3月(1200人)。 日本共産党京都東山細胞、東山税務署と交渉 谷善の提案で蛇ヶ谷の零細陶磁器製造業者が「陶友会」を17名で結成し共同窯を獲得した。</p>

1949	S24	占領軍による供米の強制 京都府下で大量の正規労働者切り(官公2039人民間5432人) 市・区役所・教員のレッドパージがはじまる。 身体障害者福祉法		京都で初の共産党の国会議員(1区谷口2区河田)1月 陶磁器労組が京都市へ四項目の陳情(9月19日)。 陶磁器労組・陶磁器業者の共催で「清水焼を守る物品税撤廃促進大会」(今熊野小学校10月) 東山納税民主化同盟(その後東山生活を守る会と改称)主催 「大口脱税糾弾人民大会」 納税攻撃と営業不振に耐えられず清水焼業者130軒が一斉休業に入る。(11月20日より)
1950	S25	生活保護法 朝鮮戦争はじまる レッドパージつよまる (京都で284名) 労働者の越年要求弾圧「円山事件」で数百人が逮捕される	市立美術大学を今熊野に開設	「産業防衛、生活擁護のための東山区民大会」(今熊野小1月)。 全京都民主戦線統一会議(1月25日結成)(2月の高山義三京都市長当選と4月の蜷川虎三知事当選の原動力に)。 京都自由労働組合大工支部の結成
1951	S26	サンフランシスコ条約、日米安全保障条約調印 社会福祉事業法 公営住宅法		陶磁器労組主催の「破暴法粉碎東山大会開催(一橋小学校)
1952	S27	清水坂市営駐車場開設(日本最初の公営有料駐車場) 祇園石段下のメーデー事件	東山区社会福祉協議会設立。 知恩院によって「平安養育院」(養護施設)が作られる。東福寺によって老人ホーム洛東園を開設。善立寺保育園の開設。	東山診療所設立 東山企業組合創立 清水焼労働者の健康保険任意包括適用運動(蜷川知事承認)
1953	S28		小松谷保育園の開設。光保育園の開設	京都第一日赤職員労働組合創立
1954	S29	蜷川知事2期目に	東福寺保育園の開設	都企業組合創立 東山生活を守る会総会で東山商工会と名称変更
1955	S30	けい肺及び外傷性せき髄障害に関する特別保護法の成立		第1回京都母親大会・第1回原水爆禁止世界大会
1956	S31	売春防止法		社会保障推進市民大会が開催され「京都社会保障推進協議会(京都社保協)」を結成
1957	S32		永興保育園の開設	勤評・学テ反対闘争 京都陶磁器労働組合組合事務所建設
1958	S33	けい肺及び外傷性せき髄障害の療養等に関する臨時措置法の成立 蜷川知事3期目に	京都市最初の東山老人憩いの家が開設。女子通所施設「なずな学園」開設。華頂短期大学に社会福祉学科が発足(全国の女子短大で初設置)。	東地区等会議初代委員長に寺前巖
1959	S34			安保改定阻止国民会議結成。東山も地域共闘結成。 京都市会に東山区で日本共産党初議席(山田幸次氏)。
1960	S35	じん肺法施行 精神薄弱者福祉法		円山公園で新安保条約粉碎等京都集会に3万人が参加。 安保条約反対で中小業者も三次にわたる「閉店スト」。 総選挙で京都1区に谷口善太郎当選し9年ぶりに議席回復 泉涌寺地区に京都青窯会発足(70名)(後の京都青窯会協同組合S43)
1961	S36	国民年金法 児童扶養手当法 世帯更生資金貸付制度	京都市国民健康保険の保険料条例減免実施	「京都民報」創刊。 東山生活と健康を守る会の創立。 京商連、「自家労賃分離申告」闘争
1962	S37	洛東中学の学テ反対で不当処分 蜷川知事4期目に	清水焼業界の山科集団移住決定	

1963	S38	国税庁が「民商つぶし」の全国的攻撃 老人福祉法		京都府会に日本共産党東山区で初議席(源孝強氏)。 東山新日本婦人の会結成 第1回東山母親大会 東山商工会を東山民主商工会と名称変更
1964	S39	京都タワービル完成、 東海道新幹線開業、 東京オリンピック開催、 米軍がベトナムへの北爆を開始。「登り窯」の焼成禁止。 母子福祉法		東山新五条建設反対実行委員会が結成される。 京都社保協の名称を「全京都社会保障改悪反対共闘会議」(社保共闘)と改める。
1965	S40	母子保健法		税務署の暴力的不当調査に民商集団提訴
1966	S41	福祉活動専門員(国庫補助化) 蜷川知事5期目に	京都府「無担保無保証人融資」創設(マル小)	
1967	S42		京都市「歳末貸付資金」制度開始	16年ぶりに京都市長選挙民主市政実現、富井清市長。 日本共産党が東山区で府会1名市会複数当選
1968	S43	「大学紛争」始まる	通所授産施設社会福祉法人大照学園授産部の設立	参議院京都地方区で日本共産党初議席(河田賢治氏) 第1回じん肺健康診断(陶労・東山診療所)
1969	S44	「コミュニティケアの形成と社会福祉」中央社会福祉審議会答申		清水寺で「6.9原水禁署名」はじまる。(京教組女性部)
1970	S45	3.13重税反対全国統一行動はじまる 心身障害者対策基本法 蜷川知事6期目に		蜷川虎三知事革新統一で自公民連合を破り6選 「今熊野学童保育所つくる会」発足
1971	S46	特定化学物質等障害予防規則 児童手当法		本多山の朝鮮人学校建設を巡る地域運動が始まる。 大型スーパー進出反対運動がはじまる。
1972	S47		愛友保育園の開設	山科民商が東山民商より分離独立。 祇園新橋の町並み保存運動 じん肺患者会「とうじん会」結成 山科ヒカリヤスーパー進出反対の闘い(阻止同盟18団体) 工業再配置促進法に谷善は西陣業界などとともに反対運動を展開 総選挙で日本共産党1区複数当選(谷口氏、梅田氏)
1973	S48	オイルショック発生 老人医療費無料化、 高額療養費制度		東山(山西)地区労結成 京都府が全国に先駆けて「65歳以上の老人の医療費の無料化」実現
1974	S49	蜷川知事7期目に		谷口善太郎死去(当時日本共産党衆議院議員団長) 京都市会補欠選挙で日本共産党勝利(森ますこ氏) 第1回東山「白川こどもまつり」 東山民商74年1月13日より4年を超える組織連日拡大が始まる。(全国最長を記録)
1975	S50	ベトナム戦争終結		第1次サラ金被害をなくす東山連絡会。 今熊野児童館建設 日本共産党府会に2名市会に3名当選 京都市が国保に不況減免制度を実施 東山民商婦人部が「民商塾」をたちあげ子供のグループ学習に取り組む(その後の東山勉強会に発展)
1976	S51	東山区から山科区が分区	町並み保存地区に清水三年坂と祇園新橋を指定(全国初)	市電を守れの直接請求署名運動はじまる。

1977	S52	じん肺法改正(治癒可能な結核とじん肺を区分しそれぞれの健康管理の充実) 学童・生徒ボランティア活動普及事業		国保に傷病手当をつくれの運動(京商連・京婦協が蜷川知事に要請し、その後京商連共済会発足に発展) 東山民商労働保険事務組合が家内労働法を使った清水焼事業者の労災適用を運動 東山秋まつり開催 京建労東山支部結成
1978	S53	京都市電全面廃止 高齢者のショートステイ開始 民主府政から保守府政に		社保共闘を発展的に改編し「社会保障推進協議会」(京都社保協)と名称を変更。 京商連共済会発足(保険会社と提携しない自前の共済に発展・民商が社会保障・福祉介護問題に本格的に運動参加) 京都サラ金問題対策協議会結成
1979	S54	粉じん障害予防規則 高齢者のデイサービス開始	寝たきり老人の紙おむつ支援をと府会質問	日本共産党府会に東山区で当選、市会は空白に。
1980	S55		京都市歳末貸付資金が夏期にも実施することに(くらしの資金)	洛東地域の下水管の逆流で住民が各地で交渉し改善
1981	S56			一般消費税・売上税阻止。ほとんどの商店街市場で消費税反対の決議が挙げられ横断幕が掲示される。
1982	S57	老人保健法		清水で「ストリップ劇場進出反対」で運動し進出阻止。 住民の要求であった今熊野「夫婦が池」改修工事完成。
1983	S58	市町村の社協 法制化年		日本共産党府会市会とも当選 「東山・白川の町並みを守る会」結成
1985	S60	年金改革＝基礎年金導入一元化		東山秋まつりにベトちゃんドクちゃんの主治医フォン博士おとづれる。
1987	S62		事実上の国民健康保険証の取り上げとなる資格証の発行できるとした法改悪。	日本共産党東山区で府会が空白に、市会は1名当選。 東山診療所医療友の会結成。 高層マンション建設ラッシュによる景観と住環境を守る運動。 親と子の要求で「東山勉強会」発足
1988	S63			「東山・白川まちづくり憲章」(まちづくり憲章運動の京都第1号)
1989	H01	消費税法施行 ゴールドプラン		六原「小島町まちづくり憲章」が町内会の総意で制定 清水寺一帯のマンション建設反対運動
1990	H02	福祉8法改正 在宅福祉サービスの推進 福祉サービス市町村一元化 在宅介護支援センター	在宅介護支援者に手当実現	東山・柳ノ森で暴力団地上げ排除で運動「まちづくり憲章」
1991	H03	ゾ連邦消滅		日本共産党東山区で府会空白、市会は1名当選。 鴨川東岸線、高速道路計画による環境破壊に反対する住民運動 東山民商共済会が「寝たきり家族を抱える会員」の実態調査
1992	H04		認知症在宅介護者手当支給	今熊野南日吉町本松園町で「まちづくり宣言」
1993	H05	障害者基本法 子供の未来21世紀プラン		国保値下げの直接請求運動
1994	H06	新ゴールドプラン(高齢化率14%) エンゼルプラン(緊急保育対策5カ年事業)	在宅の人工呼吸器に保険適用	
1995	H07	阪神淡路大震災 高齢者社会対策基本法 障害者プラン(ノーマライゼーション7カ年戦略)		ボランティアで震災地域への支援活動

1997	H09	地球温暖化防止京都会議 京都「耳塚」400年シンポジウム	介護保険法公布	
1998	H10	新感染症法		東山民商婦人部が、高齢者に「会食会」を始める。
1999	H11	ゴールドプラン21(5カ 年計画) 新エンゼルプラン	祇園町南側を歴史的景観保全 修景地区に指定。 労働者派遣法施行(派遣対象 業務を原則自由化)	
2000	H12	京都みやこ信金と南 京都信金の破綻で中 小業者のRCC(整理 回収機構)送りが頻 発。京都の企業倒産 件数戦後最大に。 社会福祉法(社会事 業法改正) 介護保険法の施行	京都市が国民健康保険の減免 を抑制する依命通達 厚生省は国保の資格証発行 (保険証の取上げ)の義務化処 置を指示した。	「東山やすらぎの会」が結成される。
2001	H13	ハンセン病国家賠償 請求訴訟で国の違憲 性認める判決 狂牛病事件 政府がデフレと認定		日本共産党井上さとし氏参議院比例区当選
2002	H14	雪印食品偽装問題		東山区社会保障推進協議会結成 東山自治体要求連絡会結成(後に「いいまちネット東山」と改 称)
2003	H15	京都の中小業者減少 率が急増。「日栄(現ロ プロ)集団訴訟で原告 全面勝訴	京都府市が借換保証融資実現	一斉地方選挙、東山府会市会とも日本共産党空白
2004	H16	京都で鳥インフルエン ザ発生	京都女子大家政学部に生活福 祉学科開設	府立洛東病院廃止反対の運動 憲法9条の会
2005	H17	小泉「郵政選挙」で大 勝		
2006	H18			
2007	H19			
2008	H20	アメリカ発の世界大不 況グローバル資本主 義の崩壊	「東山の福祉と革新の源流を探 る」準備会発足(12月)	京都市長選挙、中村和雄951票差に迫る。国保値下げ署名 18万、投票翌日「国保9割世帯が減額」
2009	H21		「東山の福祉と革新の源流を探 る」研究会発足(4月4日) 京都市が視覚障害者の投票に ガイドヘルパー[無料]派遣を 進める	

3 京都市立避病院日吉病院創立の頃

1) はじめに 日吉病院の歴史

「東山福祉と革新を語る懇談会」を進める中で日吉病院を知った。

明治政府の廃藩置県⁷からも少し落ち着いた京都府、京都市⁸は伝染病の対応に苦慮していた。そして伝染病隔離を中心任務とした聚楽病院（京都市立聚楽病院）を1882年（明治15年）に上京区（聚楽廻り松下町）につくり、また公立避病院（日吉病院）⁹を1889年（明治22年）下京区（現東山区今熊野日吉町）につくった。

病院の所管は京都市→京都府と変わるが伝染病予防法制定1897年（明治30年）からの管轄は京都市である。

1911年（明治44年）には聚楽病院と日吉病院は合併し市立京都病院となり中心病院は聚楽病院となった。日吉病院の方は臨時隔離病院となる。1915年（大正4年）市立京都病院を市外西院村（現在地の壬生東高田町）に新築移転した。同時に日吉病院を廃止した。日吉病院の歴史は1889年（明治22年）から1915年（大正4年）の27年間の歴史である。

その後聚楽病院の施設は財団法人京都施薬院に譲渡され、1943年（昭和18年）に京都厚生病院と改称された。京都厚生病院が日本医療団に買収され、日本医療団京都府中央病院と改称され一般総合病院となった。戦後1948年（昭和23年）日本医療団が解散し、京都市中央市民病院として発足した。

1965年（昭和40年）12月市立京都病院と京都中央市民病院とが再び合併し、京都市立病院として開院される。診療科目は内科、呼吸器科、小児科、外科、皮膚泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科、伝染病科、麻酔科を揃えた総合病院である。また日本で初めてカルテを一元管理し、診察券を一人一枚とした最初の病院である。

2) 明治期の京都の状況、環境

1862年（文久2年） コレラ流行
 1868年（明治1年） コレラコルクの黒焼きで全快と新聞報道（中外日報）
 1879年（明治12年） 松山からコレラ 全国に患者162637名 内死亡105784名 京都府コレラ患者3100余人 死亡1100人余り東京日日が報道

（8月以来名古屋から天然痘流行250名）

1886年（明治19年） 再びコレラ流行15万5千人死亡2/3 3府16県汚染地域に指定 京都府患者3100余人 1道9県をコレラ流行地に追加
 1890年（明治23年） 流行性感冒米国より全国に長崎よりコレラ流行全国で46019人内死亡35227人
 1891年（明治24年） （コッホの結核治療薬ツベルクリン医大に到着）
 1893年（明治26年） 天然痘流行 葛野郡朱雀野村 西京北小路 紀伊郡柳原町 府 関係地域に種痘を実施 市内小学校は臨時休校 下京避病院開設（ペスト菌発見）
 3/27
 1895年（明治28年） コレラ大流行 京都患者1842名内死亡1561名（全国死亡40150人） その年 祇園祭10月に延期（広島に回帰熱患者発生 翌年四国、中国、阪神より流行）
 1896年（明治29年） 回帰熱流行 行政は届け出を義務付ける
 1899年（明治32年） ペストネズミ買い入れ5銭
 1899年（明治32年） この年全国で肺結核死66408人死亡率7.1%
 1901年（明治34年） 警視庁ペスト予防風俗改善のため車夫、馬丁等に裸足厳禁。（全国で癩患者30093人確認）
 1902年（明治35年） コレラ患者282名内死亡160名 痘瘡患者1907名
 1903年（明治36年） 東京でペスト予算10万予算計上
 1903年（明治36年） 三高でコレラ雇い人33才が死亡
 1904年（明治37年） 府肺結核に関する告諭を発す
 1913年（大正2年） この年ペスト流行

3) 行政の対応

1870年（明治3年）	明石博高京都祇園に療病館設立娼妓の検閲を行う。	1900年（明治33年）	京都駆黴院を京都府立八坂病院と改称
1871年（明治4年）	療病院の設立許可 仏教界、花街、町衆たちが申請（賤民の裸体禁止）	1901年（明治34年）	日吉病院府衛生会の委託により看護婦養成を開始
1872年（明治5年）	青蓮院に療病院を開設（その後種痘館、解剖所、癩狂院、駆黴院、） ¹⁰ を開業（東京府下で裸体、混浴、春画、性具、刺青、嚴禁の布令）	1905年（明治38年）	東福寺全山が挑発され日露戦争のロシア人捕虜を収容1504人
1873年（明治6年）	京都府、風俗上の理由で盂蘭盆会の習俗一切禁止	1906年（明治39年）	知恩院山内に私立華頂看護婦学校設立
1874年（明治7年）	庶民を惑わす梓巫女、市子、憑祈祷、狐下げなどの民間信仰を禁止	1910年（明治43年）	芸妓救済所を設置
1874年（明治7年）	医療・服薬を妨害する禁厭（まじない）、や祈祷（おはらい）の取締を命令。	1913年（大正2年）	府立八坂病院が東山区清水梅林町に移転（その後平安病院を経て洛東病院に）
	京都府浴場混浴罷り成らぬと。府庁番外布達	1915年（大正4年）	京都市立病院新築移転により日吉病院の診察を中止
	種痘を危惧するもの絶えず。警視庁安寧課、愚民・窮民を指導するよう検討	1916年（大正5年）	八坂病院付属看護婦養成所認可
1875年（明治8年）	南禅寺の療病院管轄下に癩狂院を設立。（公立精神病院の初め）	1920年（大正9年）	旧日吉病院に衛生試験所開設
1878年（明治11年）	コレラ菌を含む、府下朱印外で製造の不潔な水、取り捨て	1926年（大正15年）	日吉病院跡地、京都美術大学に委譲、その後智積院に売却
1879年（明治12年）	東福寺南谷塔頭に避病院（隔離施設）他に大徳寺		
1882年（明治15年）	祇園新地の花見小路の土地4400坪に仮駆黴院を移転し京都駆黴院を移転し京都駆黴院開院		
1889年（明治22年）	下京区避病院（伝染病院日吉病院の前身）今熊野に設置5700坪		
1890年（明治23年）	知恩院山内に平安育児園開設（孤児院）		
1893年（明治26年）	下京区避病院を日吉病院と名称変更、常時開院		
1897年（明治30年）	知恩院山内法徳院に私立施薬院病院開院		

4) 京都にはじめての近代病院

明治政府が成立し、天皇の還幸延期の決定により首都でなくなった京都は寂れて活気を失い、人心は大きく動揺した。この京都を衰亡から救ったのは京都府参事榎村正直、顧問山本覚馬、医師明石博高らであった。彼らは我国に入りつつあった西欧文明を積極的に摂取することに傾注した。京都療病院はこのような気運の中から生まれた病院であり、京都における近代医療と近代医学教育の幕開けとなった。京都療病院の名称は聖徳太子が悲田院、施薬院、療病院の創設された故事にならって命名された。（後に京都府立医科病院になる）一方明治初めの色々な療病施設等は廢仏毀釈と上知令により取り上げた寺の寺領につくられた。京都の寺は経営の地盤を根底から壊された。又寺自身孤児院から学校の経営と進む者もあった。

5) 衛生状態 公衆衛生

日本にコレラが上陸したのは1858年（安政5年）と言われているが、当時は治療法も解らずただ恐れるばかりだった。その対処法はもっぱら治安問題から対処した、外国からも医師等を招請し研究されてきたが、対処は死体、家屋を焼却するという対処だった。患者が貧民から多く出たため部落住民の「汚れ」に原因を

求め差別を助長した。又感染が患者の死体や衣服、糞便、嘔吐に接触する職業から患者が多く発生した。

伝染病予防法制定の頃から本格的に専門の医師を招請し公衆衛生の立場から治療する様になった。また1890年代は70~80年代とは異なりコレラだけでなく、赤痢、腸チフス等多種多様な伝染病の対応も迫られた。

6) 日吉病院の診察状況

ここに1898年（明治31年）の資料がある。転記することにより報告に替える。

日吉病院の診察状況 1898年（明治31年）

（京都市全部と日吉病院扱い分を並べて）

京都全市

病名	総患者数	治癒	死亡	未轉歸
虎列刺	14	5	9	-
赤痢	155	144	9	2
腸窒扶私	574	418	119	37
痘瘡	1	1	-	-
発疹窒扶私	-	-	-	-
猩紅熱	21	17	3	1
實布的里亞	365	283	78	3
ペスト	-	-	-	-
合計	1130	866	218	43

日吉病院扱い分

病名	入院	治癒	死亡	未治
虎列刺	12	5	7	0
赤痢	82	76	5	1
腸窒扶私	209	139	49	21
痘瘡	1	1	0	0
発疹窒扶私	-	-	-	-
猩紅熱	4	2	1	1
實布的里亞	35	24	11	0
ペスト	-	-	-	-
合計	343	274	73	23

エピソードⅠ

山羊の寄付 京都市上京区黒門通り中立売上る飛騨殿17下山元松は同戸寄留人木村いそなるもの腸空扶私病に羅り日吉病院に入院せしが懇篤の待遇を受け全治退院したるを持って感謝の意を表せんと客月十三日山羊二頭（この対価拾円）を同病院に寄付せり。

エピソードⅡ

入院患者の年賀状

かねて伝染病にて市立日吉病院に入院し全治退院したるものにして本年一月入院中懇篤の待遇を謝するの意を表し年賀状を同院に送り越したるもの四名ありたりという。

エピソードⅢ

一月中伝染病患者（明治32年1月中）

本年一月中京都市内に発生したる伝染病患者は総計129名にしてその内訳下の通り。赤痢3名、腸空扶私76名、猩紅熱6名、實布の里亞44名、合計129名そのうち死亡者は24名であった。

脚注

- 1 「東山の福祉と革新の源流を探る」懇談会ニュース 1-6号（2009年）同会年表
- 2 『京都府百年の資料4 社会』、1973年、京都府
- 3 『史料京都の歴史第10巻 東山区』、1987年、平凡社
- 4 「陶労60周年事業誌」、1950年、パンフ、谷口善太郎『日本労働組合評議会史上・下』、1932年、京都共生閣
- 5 前掲2
- 6 「東山診療所創立50周年」、2002年、東山診療所
- 7 1869年（明治2年）から廃藩置県
- 8 1889年（明治22年）市制施行
- 9 1887年（明治20年）愛宕群今熊野村を京都市に編入
- 10 1871年（明治4年）民間の避病院、岡崎願成寺、永観堂、銀閣寺、金閣寺、の各住職が発起人になり寄付を呼び掛ける、府民の浄財、管内医師や薬剤師からの助成金、花街からの冥加金から計五万円集まった。我国初の私立公営病院

参考文献

- 2 「東山の福祉と革新の源流を探る」年表

大本山東福禅寺、1930、『東福寺誌』、思文閣出版

『仏教社会福祉の源流』、2005、龍谷大学 人間・科学・宗教オープンリサーチセンター

芹川博通、2008、著作集第7巻、『仏教と福祉 共済主義と共生主義』、北樹出版

中村政則編、岩波ブックレットNo. 624、『年表昭和史増補版1926-2003』、岩波書店

日本共産党京都府委員会、2004、「京都府党のあゆみ」馬原鉄男編、1997、『部落の歴史と解放運動 現代編』、部落問題研究所

京都府商工団体連合会、2005、『京商連五十年のあゆみ』

岡本康、2008、『革新京都の先駆者達』、つむぎ出版

木村万平、2007、『京都破壊に抗してー市民運動20年の軌跡』、かもがわ出版

京都市、1987、『史料京都の歴史第10巻 東山区』、平凡社

『京都の歴史8 古都の近代』、1976、学共書林

京都府、1972、『京都府百年 資料6 宗教』

京都府、1970、『京都府百年の年表6 宗教編』

京都府、1972、『京都府百年の資料4 社会編』

華頂学園、1962、『華頂百年』

日本仏教社会福祉学会、2006、『仏教社会福祉辞典』、法蔵館

京都陶磁器労働組合、1983、「陶労60周年誌」

京都日吉製陶協同組合、2003、『日吉開窯90周年記念誌』

渡辺徹、1959、『京都地方労働運動史』、三月書房

谷口善太郎生誕100年・没後25年記念の集い実行委員会、1999、「谷口善太郎年譜」

京都民報社編、1994、『京都の礎をきづいた人々』、京都民報社

京都府、1971、『京都府百年の年表4 社会編』、1971年

「洛東園40年事業誌」

東山診療所、2002、「東山診療所創立50周年 ささえられて半世紀」

『療原（創刊号から50年）』、2000、療原社

『がくどうっ子たち 今熊野学童保育所と地域の運動の記録』、1974、汐文社

梅田勝、1988、『京の夢はでっかい』、かもがわ出版

藤本文朗、1994、『京都障害者歴史散歩』、文理閣

田井中克人、2003、『69人目の犠牲者 京都ジフテリア予防接種禍事件』

藤本文朗、2009、「京都市が視覚障害者の投票にガイドヘルパー [無料] 派遣を進める」、点字「毎日」3月15日号

金洪圭、1998、「秀吉・耳塚・400年—秀吉政権の朝鮮侵略と朝鮮人民の闘い」、雄山閣

「社会事業のあゆみに関する聞き取り報告集」、華頂短期大学社会福祉学科内、社会事業のあゆみに関する研究会

日本共産党左京地区委員会20年記念誌編纂委員会、「歴史をふまえて 21世紀への新しい挑戦—日本共産党左京奮戦記」

鈴木栄樹、「京都薬科大学公開講座（H11.10.9）での要旨 明治期京都の医療と衛生—文明開化と病気—」

京都府保険医協会、2000、『京都保険医協会50年史』

松尾尊兌、2002、『戦後日本への出発』、第4章敗戦直後の京都民主戦線（1978京都大学部文学部研究紀要18巻）、岩波書店

五十嵐仁、2007、『「戦後革新勢力」の源流』—占領前期政治・社会運動史論1945—1948、大月書店

伊藤之雄、2006、『MINERVA日本史ライブラリー ⑰近代京都の改造—都市経営の起源1850-1918年—』、ミネルヴァ書房

京都高等学校社会科研究会、2005、『続・京都に強くなる75章』、7月、かもがわ出版

鈴木 良、1999、「歴史の楽しさ—地域を歩く」12月、部落問題研究所

河上 貢、2007、『京都の近代化遺産』、淡交社

伊従 勉・高木博志・丸山宏、2008、『みやこの近代』、思文閣出版

わがまちウリトンネ(65・73) www1.korea-np.co.jp/sinboj/

自衛隊ニュース、2006年1月1日号9面、防衛ホーム新聞社

大場修、「近代京都における上知令による社寺境内地の変容と番組小学校への転用」、2006年度日本建築学会近畿支部研究報告集

立命館大学産業社会学部鈴木良ゼミナール、1991、『占領下の京都』、文理閣

京都民報社、1988、『近代京都のあゆみ』、新装版発行、かもがわ出版

小柳津恒、1977、「京都民統の思い出」

3 京都市立避病院日吉病院創立の頃

京都府、1972、『京都府百年の資料4』

京都府、1972、『京都府百年の資料5』

京都府立医科大学「京都に初めての近代病院」

京都市立病院、「京都市立病院40周年記念誌」

小林丈広、2001、『近代日本と公衆衛生』、雄山閣

A Study of Historical Approach to the Welfare and Innovation in Kyoto Higashiyama-ku (Part I)

Buro Fujimoto*, Hiroshi Fujita**, Shoichi Uematu**

Abstract

“The Meeting to discuss Welfare and Innovation of Higashiyama” was set up and we made the chronological Table after Meiji era (1868 ~). The six points we studied are as follows:

1. Abolition of traditional Buddhism destroying old temples and statues
2. He Hospital (For quarantine isolation) and Ku-Bi Facilities (treating syphilis)
- 3 Taniguchi Zentaro
4. Higashiyama Clinic
5. About young people and women
6. About Korean people living here as foreigners

We'd like to report on six points above and especially about He Hospital established in the beginning of Meiji era with the chronological table.

Keywords : Taniguchi Zentaro, Min-sho(Democratic storekeepers' society), Mother meeting in Higashiyama

*The Meeting to Discuss Welfare and Innovation of Higashiyama

Contact Address:

〒605-0953 13 Imakumano Minamihiyoshi-cho, Higashiyama-ku, Kyoto City

Bunro Fujimoto

Tel and Fax: 075-541-5270

**The Meeting to Discuss Welfare and Innovation of Higashiyama